

国際ロータリー第2730地区

# 高鍋ロータリークラブ

# 会報



会長 多賀 学昭  
副会長 川上 幸子  
幹事 坂田 師通

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30

例会場 ホテル泉屋 2F

事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋1368-4  
ホテル泉屋内 TEL・FAX 0983-21-1636

## 第2311回 令和6年9月5日プログラム

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 点 鐘        | 7. 月初めのセレモニー |
| 2. ロータリーソング   | 8. BOX披露     |
| 君が代・奉仕の理想     | 9. 各委員会報告    |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 10. 会員卓話     |
| 4. 会長の時間      | 11. 点 鐘      |
| 5. 幹事報告       |              |
| 6. 出席報告       |              |

## 高鍋ロータリークラブテーマ

『共に語り、共に栄え、共に未来への種を蒔こう』

第2730地区ガバナー 笹山 義弘

中部グループガバナー補佐 戸高 勝利

RI会長テーマ 『ロータリーのマジック』

第2730地区テーマ

『ロータリーのマジックで、ロータリーを楽しもう』

9月の月間テーマ

基本的教育と識字率向上月間

本日の例会案内 \*米山ランチBOX

\*月初めのセレモニー

\*会員卓話—長谷川修身君

\*例会終了後理事会

次回例会案内;9月12日(第2312回)

\*雑誌紹介

\*外部卓話—東児湯消防本部消防長

瀬川 幸一郎 様

## 第2309回 例会内容 (8/22)

### □会長の時間

会長 多賀 学昭 君

#### ~50年前の青春~

皆様、本日のご出席ありがとうございます。

お盆の前には大変大きな地震があってびっくりしましたが、皆様のところでは被害はなかったのでしょうか。私あてには早速米沢上杉ロータリークラブの佐藤さんからお見舞いのメールが届きました。大変ありがたかったです。また驚いたのは7月10日にドイツのベルリンからお見舞いと安否を問い合わせるメールが届いたことです。これは毎年川南のモーツァルト音楽祭に来日してくれるソプラノ歌手からで、ドイツでも「日本の南の宮崎で大きな地震があって被害が出た」と報道されたそうです。世界は狭いことに改めて驚かされました。実はお盆で忙しかった上に英語で返事を出すのが億劫なのでまだ返事を出していません。

きっと怒っていると思います。今夜書きます。

さて、こここのところ昔の話ばかりして恐縮なのですが、私達の青春時代は1970年代前半でした。

大学はまだ70年安保闘争の直後で騒然としており、



仏教系の大学である私たちの学校の中でも立て看板が立ちならび過激派学生のアジ演説が飛び交っていたことを思い出します。学校がロックアウトされて学内に入れなくなり、授業が何日も中止になったこともありました。

そうした運動も72年(昭和47年)2月の浅間山荘事件、そのあと明らかになった過激派学生グループ内部での、総括と称する仲間に対する凄惨なリンチや殺人事件などによって、一挙に世間の支持を失い、学内も徐々に平穏を取り戻していった記憶があります。

そして、75年(昭和50年)以降は学内の雰囲気は一変し、いわゆる「大学のレジャーランド化」が始まりました。我々が入学したころはまだ社会問題や学問、人生の問題について深刻に夜を徹して議論するようないわゆる旧制高校的な雰囲気や伝統が残っていたのですが、そういった雰囲気は急速に学内から消えていった気がします。

しかし、そうであっても世の中にはまだ「社会主義、共産主義の方が進歩的な考え方。」とする風潮は色濃く残ってありました。過激な学生運動は沈静化していきましたが、思想界、言論界、マスコミではまだまだマルクス主義の影響は大きく、左翼全盛という時代だったのです。

私も仏教を学ぶ学生も「宗教はアヘンだ」などと侮蔑的な言葉を浴びせられて意気阻喪することがありました。そういう時代風潮の中で、自分は僧侶としてどういうスタンスで世の中と対峙し、生きていけば良いのかというのは大変大きな課題だったのです。

しかし、人間の精神的な悩みや苦しみが単に社会的な制度や組織の改善だけで解決できるはずがありません。

「自分は何のために生まれ、何のために存在しているのか」を徹底的に問うのが本来の宗教の在り方なので、自分に対する深い反省を欠いて他人を批判ばかりしている人間や、「独裁こそが本当の民主主義だ」とか訳のわからないことを言っている人たちをどうしても信頼する気にはなれませんでした。

そんな時にたまたま本屋で手にしたのが、ミルトン・フリードマンという人の書いた『選択の自由』という本でした。この人はいわゆるシカゴ学派に属する経済学者で、フリードリヒ・ハイエクという、生涯を通して、共産主義、全体主義に警鐘を鳴らし続けたオーストリア出身の自由主義経済学者のお弟子さんです。この本を読んで私は先ず、計画経済を基本とする共産主義、社会主義が経済的に決して成り立たない理論であること、そればかりでなく、そのシステムを通じていかに人間の自発性と自由を奪い、人々を隷属的な体制に追い込んでしまうかということを経験的に納得したのです。西山千明訳のその本を読んだのは多分1980年ごろだったと思います。

それからは所謂社会主義者の言論に惑わされることがなくなりましたが、その後カンボジアにおける知識人文化人学校教師等の大虐殺(当時のカンボジア首相ポル・ポトはルソーの熱烈な信奉者だったそうです)があり、ソ連の経済や政治体制が崩壊し、今また中国経済の破綻が危惧されている現状を見るにつけ、50年前を思い返すと、うたた今昔の感に堪えません。

□幹事報告 幹事 坂田 師通 君  
<文書案内>

\*中部グループ会長幹事会

日時 令和6年10月2日 水  
18:30~

場所 JAL シティー宮崎

\*中部グループ・南部グループ  
合同IM「クラブ活動報告」発表の  
お願いと当日の多数参加の  
お願い

日時 令和6年11月17日  
10:00~

場所 シーガイアコンベンションセンター

\*クラブ・ラーニングファシリテーター (CLF) 選任の件

\*ロータリー財団勉強会開催のお知らせ

日時 令和6年11月24日(日) 10:00~12:30

場所 メインホテル 参加費 2,000円



□出席報告 出席委員長 児玉 幸則 君

出席状況 (8/22)

会 員 数	38 名
出席会員数	29名
ホーム出席率	80.56%
修正出席率	83.33%



□シンガポール国際大会報告 <2024. 5. 25~30>



藤本範行君



野添勝久君



橋口清和君



岩切洋君



長谷川修身君



親睦活動委員長  
高橋康朗君

<炉辺会合のご案内>

日時 令和6年9月6日(金)  
18:30~

場所 ホテル四季亭  
ビアホール

会費 3,500円